

## 序言

『言語と文明』第19巻が刊行の運びとなりました。本誌は、言語教育研究科の学術研究誌として2003年に刊行され、以来、研究科に属する教員、院生、修了生の研究成果の発表の場となっています。本巻には、研究論文が3本掲載されることになりました。教員による論文、言語教育研究科の修了生による論文、そして大学院生（博士後期課程在籍）による論文が掲載されています。コロナ禍という未曾有の事態にもかかわらず、研究を止めることなく発表に至った背景には、多大な努力と研究意欲があったからこそだと思います。また、編集にあたられた大野仁美委員長をはじめ編集委員、査読委員各位に感謝申し上げます。

2020年度は博士後期課程比較文明文化専攻の院生1名に文学博士の博士号が授与されました。麗澤大学学術リポジトリにおいて博士論文の全文がご覧いただけます。また、日本語教育学専攻（博士課程前期）の院生9名に修士の学位が授与されました。それぞれが今後一層、活躍の場をひろげていくことを期待しています。

言語教育研究科をとりまく状況は年々異なっており、そして、日本社会でも環境は大きく変わり、これまでになく多様性が尊重されるようになりました。多様性とは、文化、ジェンダー、国籍、価値観などを指しますが、多様性がいかされる社会が実現されたとは言い難く、実現のためには、探索的な研究や実証的な研究が必要だと思います。

これまでの伝統を大切にしながら、変化する社会において、果敢に研究に挑む研究者の養成は、大学院の社会的な使命です。今後も成果発表の場として、本学術研究誌が麗澤大学内外の研究者に大いに活用されることを願っております。

2021年（令和3年）3月

言語教育研究科長 近 藤 彩